

71 シーボルトの「盲目のミカド」第一幕草稿について

誌上発表

由比 文顕, 中山 茂春

福岡和白病院

ブランデンシュタイン城のシーボルト関係資料を1990年長崎市教育委員会はマイクロフィルムに収めドイツ語で書かれた「盲目のミカド」(Das Japanische Schauspiel 'der erblindete Mikado') 第一幕草稿(下書き)も日本の研究者には知られる様になった。だが「盲目のミカド」を知らない医師もいると思えその私訳を紹介する。

【私訳】 深い山々、沈みつつある太陽が照らす火山の岸壁を背景に、針葉樹を伴う岩と自然のままの生き生きとした森の小川を前壁に；寺院の門は礼拝堂に通じ藪から左下へ突き出たように素朴な小屋が建っている。山々からの行列がゆっくり且つ厳かに近づく、見慣れない印璽は重要、立派な腰が運ばれてくる一荒廃したような沈黙が支配した一行列が静止した一輿が開こうとした。式服を着た盲目の白髪老人と高貴な婦人、寝所の板を張る者、兵士侍女雌牛に水を与える兵士。ミカドと御令室(深く震えるような声で)だから私も山であるかのように、窪地で神々の先祖は下に伸びているのを思うと再生した所に敬礼する！雪で覆われつつ突出した頂上と共に彼女の誇りは神々の戦いで英雄的行為、岩の突角、ヤマトの高い山々。そして尊き御方(M.Sey)は無敵の天地の子として故郷の大地へやってくる。春となると山や谷は晴れた朝日で着物を着たように光り輝き、下々は、桜の木やスモモ、柔らかい小葉の灌木から作られた縁取りされたような彼女の王冠、そしてスマレとKsは芳香に熱中しながら善き行為に取り掛ろうとした。その時太陽は沈んでいき背後の黒い革に隠れる、長い陰は高い木々を覆い赤い斑点のある葉の皮を剥ぐ、楓を低く跳ねるように引っ張る黒ずんだ雲。隠れてしまった深い神々の天の光は変化して汝に光を放つ！恐怖に震えだし？夜は？を打ち砕き絶壁から大地に転落した。名声や勝利の歌が胸中から絶壁に反響しなかった、そして静けさに？。否？低い声で落胆した男の姿は川のぶつぶつという音とともに隠れ？。嘘をつき？。青空に戦場への道を暗記する灰色の驚き、固定した安全な旗；その時迅速に羽ばたき？。挟間の絶壁で転倒し羽を有する動物らは見えなくなった。M.Esは祝福豊かな勝利の行進では概ね無かった、；カシワラに向かう勝利の行進とそこに人類神々のための王座、息子父の僅少の日々(に過ごす)ための王座、子供のいない父と母？静かな谷を通過しての疲れた生活そして？墓(死)、彼女の両親が生まれたところ—100万以上の？元首？彼女の王冠？傾いている？宝物？女性支配者は誓い全てを自分自身で？日々の光 beranbte—責められて困った予言者？

【考察】 美馬順三により1824年2月～1825年6月に書かれたオランダ語論文「日本国の最古の歴史、真和および最初のミカドの生涯」は1826年助手ビュルガーによりドイツ語に訳されシーボルト帰欧後ホフマンの協力もあり1832年「日本」第一分刷に至ったという。この盲目のミカド第一幕の末尾にはTentsi tenwo (reg 662-672) Mikado. 天知と記されている。江戸参府の際大坂で観た天智天皇が主役の歌舞伎「妹背山婦女庭訓」(大序～二段目)を背景として最初のミカドの生涯を劇(あるいは歌劇)に仕立て上げて西洋人に伝えたかったのではないかと推測する。